

参考資料 目次

1. 「北関東における多文化共生地域づくりのため検討会議」設置要綱 _____	75
2. 「北関東における多文化共生地域づくりのため検討会議」議事概要 _____	77
3. 日本人住民の意識把握のためのアンケート調査 調査票 _____	88
4. 日本人住民の意識把握のためのアンケート調査 単純集計 _____	98
5. リソース調査ヒアリングシート _____	107

1. 「北関東における多文化共生地域づくりのため検討会議」設置要綱

(趣 旨)

第1条 「広域ブロック自立支援等推進調査」(以下「調査」という。)について、調査の実施について必要なことを検討する。

2 茨城、栃木、群馬、埼玉の広域圏において地域の多様な主体間の適切な役割分担と連携の強化による多文化共生の地域づくりのため必要なことを検討する。

(検討事項)

第2条 会議は、次の事項について協議する。

- (1) 地域課題の整理及び具体的解決方法の提案
- (2) 多様な主体に対する参加促進方策
- (3) 広域地域が一体となった今後の施策展開
- (4) 広域圏における先導的モデルの実施及び効果の検証や課題の整理
- (5) その他調査の実施に関し必要なこと

(構 成)

第3条 会議は、別表に掲げる13人の委員で組織する。

- 2 会議に委員長をおく。
- 3 委員長は委員の互選により決定する。
- 4 必要に応じて専門部会を設置する。

(会 議)

第4条 会議は、委員長が招集する。第一回目は群馬県国際課長が召集する。

(庶 務)

第5条 会議の庶務は、群馬県生活文化部国際課において処理する。

(補 則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成20年12月4日から施行する。

<別表>

委員 計13名

所 属	職	氏 名
総務省自治行政局国際室	課長補佐	渡邊 浩之
文部科学省大臣官房国際課	専門官	里見 昭彦
国土交通省広域地方計画課	課長補佐	角田 陽介
国土交通省関東地方整備局広域計画課	課長	市川 広志
茨城県生活環境部国際課	課長	富沢 信央
栃木県産業労働観光部国際課	課長	桑名 正史
群馬県生活文化部国際課	課長	山口 和美
埼玉県県民生活部国際課	課長	星野 喜治
宇都宮大学国際学部	教授	田巻 松雄
群馬大学教育学部	准教授	○ 結城 恵
サンデン株式会社	理事	青木 寿男
NPO法人ふじみの国際交流センター	理事長	石井 ナナエ
NPO法人多言語教育研究所	理事長	ミックメーヒル・カイラン

○：委員長。職は当時のもの。

2. 「北関東における多文化共生地域づくりのため検討会議」議事概要

(1) 第1回検討会議

1) 会議の概要

日 時：平成20年12月4日（木） 午後1時30分から午後3時30分
場 所：都道府県会館407会議室

2) 次第

1 挨拶

2 自己紹介

3 議題

- ①検討会議設置要綱（案）について〔資料1〕
- ②北関東地域における多様な主体による日本人と外国人が共に生活する地域づくり・まちづくり推進調査事業について〔資料2〕
- ③上記調査方針・実施方法等について
- ④アンケート調査、リソース調査について
 - －1 アンケート調査〔資料4－1〕
 - －2 リソース調査〔資料4－2〕
- ⑤調査スケジュールについて〔資料5〕
- ⑥その他

3) 議事録

調査方針・実施方法等について〔資料3〕

〔資料2〕について事務局より説明

- 今回のアクションリサーチについて、さまざまなテーマが想定されると思うが、特に「災害」と「IT」の2つを取り上げたということについてご説明頂きたい。
 - ⇒ 広域ということで、必要性が考えられるものの一つが、セーフティネットということで「災害」、また「IT」は、個々が連携して何かに取り組むというのは難しいので、まずはインフラを整え、それを使って繋がりを作れるようにということで、きっかけ作りということで挙げている。
- 簡単に平成18年度の調査と今回の調査との違い、先ほどの「災害」と「IT」にフォーカスが当たる経緯というのをご説明頂きたい。
 - ⇒ 前回は国土施策創発調査ということで、様々な省庁の方が関わりながら、課題になっている「多文化共生」が問題になってくることから、日本人と外国人が共生するいろんな局面ごとにどんな取り組みが必要かということが考えられていた。また日本人と外国人が接点を持っている「働く」「住む」「学ぶ」という様々な局面において、必要な取り組みと、それをどのように動かしていくべきかということを考えてものと理解している。
 - ⇒ 前回の調査は集住地区を対象としたが、今回は、受け入れる日本人の側はどうか、というところに視点を当てるということが異なる。防災は広域的連携が必要であり、日本人がどういう体制を取るとより良い地域ができるかという視点で考えている。また、インターネット等が発展しているので、そういったものを使った実験が効果的なのではな

いか、ということで「IT」を提案している。

- 一昨年度の調査で使われている「社会実験」という言葉と、今回の「実証実験」という言葉に何か違いはあるか。また「自立」という言葉を非常に多用しているが、言葉の使い方が若干ひっかかる。
 - ⇒ 「社会実験」と「実証実験」について、前はこういうことが必要であろうという想定のもとで取り組んだものが多かったが、今回は、そういうものに取り組んだ成果として、仮説を立て、実証していくという意味合いから少し言葉を変えている。
 - ⇒ 「多文化共生」は外国人支援というイメージが強いが、外国人は支援される立場ではないという考えが前提にある。外国人が地域づくりに参画するために、外国人が自立できる意識をもってくれるための制度、仕組み作りをしようということで前は提案している。「自立」という表現は、支援される立場ではないということ。
- 「自立」という言葉は非常に使い方が難しいところがある。もし使うのであれば今のような説明が必要で、必ずしもそう読めないところもあるかと思うので、その辺の議論は必要ではないか。「日本語を習得する必要がある」というのであればそう表現すればいいのであって、あえて「自立」という言葉を使う意図があるのか疑問。
- NPOの中にも一生懸命やってもなかなか行政の目が届いてないような団体がたくさんある。調査の中でいろんな団体が浮かび上がってきて、連携が取れるとよい。また、集住地区ではない外国人の人たちが今何を望んでいるのかということも、調査の中に入れるとよいかと思う。
- アンケート調査は日本人の意識調査ですが、それ以外に外国人の意見を聞き取れる機会はあるのでしょうか。
 - ⇒ 「防災」に関しては、外国人の方や外国人学校の子どもたちには参加していただくので、その都度アンケートなどで意見は伺い、その他リソース調査の中で対応が考えられる。
- この調査のなかで、外国籍の方の視点やご意見をどう盛り込んでいけばいいのか、いいアイデアがあれば教えていただきたい。
- 派遣社員が多く解雇となっているため、外国人が調査時に消えてしまうのではないかと、また外国人学校もすでに閉校してしまっていて、ホームレスになった外国人もいる。その中には、通訳のボランティアとか外国人の自立を支援している人たちなど、長年日本に住んでいる外国人も多いため、通訳やテレビ会議といった新しい試みが、困っている外国人を支援できたらありがたいと思う。前回調査時は、今のような経済状況や社会状況ではなかったということを念頭に置くと、今の時代だからこそ現れてくる諸問題に目を向けないといけないかと思う。
- 外国人を採用するといろいろな問題がある。ただ、外国人がいるからこそ産業が成立している。そういった環境の中で外国人についてどう考えていくかが大きな課題かと思う。
- 関わる主体というのが必ずしも会社だけではなく、いろいろあると思う。今の地域が今後どう変わりうるのか、この仮説をしっかりと立てておかないといけないと思う。
 - ⇒ 今回は、外国人が居ようと居まいと、あるいは居る地域と居ない地域の関連性など、幅広く地域全体で多文化共生していかななくてはならないということで行うものと考えている。
- 行政が指導的にやるというよりは、地域社会の中で解決していく問題が多いのではないかと。地域社会が主体的に外国人を受け入れて解決していくような社会、あまり行政がどうこう言うのではない社会を目指していけばよいかと思う。

- 地域づくりにあたり、やはり日本人側に課題があると思う。そこに定住している、受け入れる側の意識なり方法なりが変わっていかないといけない。また、意識調査自体が「多文化共生」の意識につながっていく部分もあるので、集住地区だけではなく、他の地区も行うというのは今後の可能性としてはいいことだと思う。
- 日常的な情報発信・交流システムについて一つ心配なのが、誰でもできるようにしたときに、無責任な書き込み等を監視できるような形にしたほうがいいのではないかと。
 ⇒ 書き込みは、身元を明らかにしなければならない。また監視するということは誰かが管理しないとならないわけで、その人件費をどうするかについても調査の中で考えたい。
 ⇒ セキュリティーだとか、そういうメンテナンスで必要な守秘義務等は守れるようにという配慮はしていくということ。
- 本県は他の北関東の3県に比べると、多文化共生の取り組みは少し遅れているという感覚がある。ボランティアされている方の掘り起こし等もまだ不十分な状態で、こういった調査で出来るだけ把握できる情報が多くなればいいと思う。本県も多文化共生社会を目指してプラン等を立てたが、どういった社会を実現していこうというビジョンが曖昧なところがあるので、この調査を見ながら、また掘り進められたらと思う。
 ⇒ 今年度の調査は、広域首都圏の調査であるということ、どれだけ多くの主体が繋がれるか、繋がった後にどんな成果があるか、それをきちんと実証するものでなければならない。そういう意味で、広域連携による先導的モデル事業による実証実験で取り上げられている災害対策は、人々が繋がらざるをえないという点で、本調査結果を検証するのに重要なテーマと考えられる。またITに関して、も人と人とを繋げる道具という意味で、その積極的な運用は非常に重要である。誰がどこにいるのかをどれほど把握できるか、より多くの主体がこの調査によって絡めたかどうか、集住地域とそうでない地域が役割分担をしながら繋がったか、そしてその連携が意欲的なものであったか、外国人でない人にも応用可能な実験ができたかということであるかと思う。
- 日本人の意識を変えられることができればいいと思う。外国人の子どもは公立学校でも受け入れており、適用しにくい子どもについては外国人学校に行ったりするが、そのときに日本人側に受け入れる意志がないということもあるので、やはり日本人の考え方が変わらないと自立ができないのかと思う。
- 広域連携で今回災害ということだが、災害の前に普段から何かしらの繋がりがないと、いきなり災害の時に助けるといっても何かの繋がりがないと難しいのではないのか。この訓練をきっかけに、繋がりを持てればよろしいかと思う。
- 多様な主体のつながり、それから、新たな公としてのつながり、それが今回は防災という形でモデル的に出ているが、そこで築かれたものが様々な領域で活用可能であるような調査にしていきたい。
- ネットワークとスムーズな連携ができていなければ、どのプロジェクトも成功しないと思うので、是非ここで取り上げるプロジェクトがその一つのモデルとして、他のプロジェクトにも参考になるようなものとなるよう、ご協力お願いしたい。

アンケート調査、リソース調査について - 1 アンケート調査【資料4-1】

・【資料4-1】について事務局より説明

- 私たちの地域は外国人の割合が1.25%程度。外国人との日頃の関わり合いや、外国人に対する意識など、いきなりアンケートで聞いても何も返ってこないと思う。

- ⇒ 今回は集住地区以外のところも対象としているので、ある程度イメージができるような前提の上で質問したい。時間が非常に限られているので、是非メールで流し、委員さんに確認していただくという手続きをしたい。
- アンケート調査をすること自体が計画的な活動につながっていくと思う。
 - アンケートの中身は、防災ということをどれだけ取り上げるのかでしょうか。実験と繋がりがあつたほうが、アンケートから課題が見えてくることもある。
 - ⇒ 防災はまた、リソース調査の方で対応したい。
 - 日本人の意識のなかでどれくらい繋がり意識があるかどうか確認しておくほうがよい。平時のときと有事の時に繋がりをどうするかによって違ってくるので、繋がりをくみ出すような、これからを想定して聞き出すようなアンケートがいいのではないか。
 - ⇒ ここにも外国人の力を借りたい場面とかありますので、そういうところで聞きたい。
 - 啓発みたいなのが目的であれば関心を持っていただくということも重要で、次に繋げるとなると、何もなくアンケートをとると誘導になり、おそらく答えがまったく違うだろうという気がする。
 - 次の課題になるのは連携ということが前提になるので、それが意識されているか、されていないかという項目は入れておかないと、意識されていないというのが出て初めて施策につながるの、実態を導き出す質問にしたい。答えるだけで啓発されるのではなく、分析の中でこの繋がりが弱いのかを導き出すことによって次につなげるようにと思う。誘導にならない質問項目になっていないか、それから答えたものの何が課題でどういう政策をつくれればいいのかを具体的に表すような構成になっているかどうか、是非ご確認をいただきたい。
 - アンケートの目的は多文化共生の地域づくりであって、そのための課題を出すためのもの。真っ白な状態でアンケートすること、ある程度今の課題がこうでないかと思っておいてアンケート調査をして、我々が考えていたことと実際がどう違うかということを確認しておいたほうがいいのではないか。
 - ⇒ 今回の我々の仮説は、つながりが重要であるということ。それが果たして多文化共生の地域づくりを行うのに、仮説自体が正しいのかどうかということ、他の指標も入れて考えてみたい。有事のときの広域間連携を繋げるものは、多様な主体のつながりでかなりフォローできるものではないか、異なる集住地域とそうでない地域のつながりによってフォローできるのではないかということかと思う。
 - 外国人を見たことない人たちの漠然とした不安はあるでしょう。アンケート結果を予測すると、そんなに共生したいという思いは日本人側にはなく、犯罪などの方が強く出てきてしまうというのはあるので、そういうことをある程度予測して、その後の繋がりをどうするのが問題である。経験談から言うと、例えば100人くらいの工場に研修生として外国人が来ると、何人かの人自主的にケアしている。その程度なので、そうしたことをある程度予測した形でつくったほうがいいのではないかと思う。それからアクティブな人とそうでない人がどう繋がるか、ということもある。
 - 集住地域の方が拒否感が強いのではないかと思う。まさに集住地域とそうでない地域に同じ質問をして、かえって日常的に外国人と触れ合っても、理解している人は理解しているのではという気はしないでもない。今の日本人が多文化をどう考えているのか、それから集住地域と都市部と山間部の、学校の児童のアンケートも取り入れてもらえればいい。学校に頼めば明確にアンケート取れる。
 - 一昨年度のアンケートから見えてきたよく分かっていないことを今回のアンケートで取り

返しをするという流れも必要。日本人の住民と交流したいですかと聞かれても、同じような回答がでるのでは。

⇒ 外国人だからということだけではなく、今回は多様な主体と関わっていくという点で、日本人の住民がどう思うか、それから県を超えてまた違う人たちと関わるかもしれない。それに対してオープンな人とそうでない人がいる。普段からいろんな人と関わっている人と、そうでなく一人でいたい人もいるので、それは地域によって違うような気がする。

- 一昨年の調査で、外国人労働者としては必要だが、近隣住民としては嫌だという結果がある。地域で考えると、今高齢化が進んでいて、デイケアセンターなどは、外国人の力でよいかからすぐくほしいと言っている。
- 本県の施策として、ある程度観光にも力を入れていこうというのがある。外国人観光客が訪れたいと思っているようなところにどのくらい外国人が住んでいて、地域住民がどのような受け取り方をしているのかは聞いてみたいところ。
- 何を基準にして比較対象にするのかをしっかりと考えたい。工業団地でも外国人が多いところとそうでないところの日本人違いは何かなど、指標を比較できるような形で整理しておくほうがよい。
- 集住地域かそうでないかというのは、別の見方をすると、外国人との接触頻度である。接触頻度がどのくらいかを属性の中に入れていただきたい。居たとしても接触してない人としている人では違う。あとは職場では会うが、他のところでは接触していないということもある。
- 前回の調査では、そういう意味では学校と職場が非常にキーになるので、地域コミュニティだとか行政主体のものはなかなか効果がないというのが出ていたと記憶しているが、そういうのも前回の調査と絡めて何か出てくればよい。

アンケート調査、リソース調査について - 2 リソース調査〔資料4-2〕

・〔資料4-2〕について事務局より説明

- 活動内容など、対象団体に関して分かることは事前に調べてから聞く方がいい。
- 気軽に英語で答えられるようなものもあった方がよいと思います。
 - ⇒ 外国人の方がそういうボランティアでやっていただくことがあったので検討する。
- 大学なんかも活用していただいて、協力したい。

調査スケジュールについて〔資料5〕

・〔資料5〕について事務局より説明

(2) 第2回検討会議

1) 会議の概要

日 時：平成21年3月2日（月）
午後1時30分から午後3時30分
場 所：都道府県会館407会議室



2) 次第

1 開会

2 議題

- ①多文化共生に対する日本人の意識調査（アンケート調査）中間報告〔資料1〕
- ②多文化共生社会づくりに係わる各種主体に関する調査（リソース調査）中間報告〔資料2〕
- ③多様な主体による災害対応事業・防災合同研修会報告〔資料3〕
- ④本調査の実施状況及び今後のスケジュールについて〔資料4〕〔資料5〕

3 閉会

3) 議事録

2 議題

多文化共生に対する日本人の意識調査（アンケート調査）中間報告〔資料1〕

・〔資料1〕について事務局より説明

- 「外国人との交流を目的としたイベント」について「参加したくない」けれど「友達からの誘いがあれば」とか「自分の関心のある内容であれば」といった回答があり、外国人が嫌いだからという感じではなくて、まだ関心はありそうなので安心した。一方で、「地域で生活するうえで、外国人にしてほしいこと」ので、「あいさつなど基本的な生活習慣を身につける」という回答が多く、日本人同士でもあいさつをしていないのに、どこまでが生活習慣かわからないが。また「十分な日本語の習得」という回答もありますが、まだ日本では日本語を公的にきちんと教える制度ができていない中で、皆日本語を習得することが大変であることを認識していないことを感じた。ただ思っていたほど、外国人が嫌いという印象がないので安心している。
- 背中を押してもらいたがっているという感じがする。行政やNPOが何か声掛けができる可能性があるのかと思う。
 - ⇒ この調査をするうえで、最初に地域の属性によってかなり考え方が違うのではないかと考えたが、実際には大きな違いはでていない。地域の中にもいろんな人がいるという状況があるので、その人がそもそもどういう人かによって考えが違うのではないかと、というように切り替えて個人の指向性や属性について集計している。
- 回収率13.3%はどう捉えたらいいのか。
 - ⇒ 行政がやっているのかという疑惑と、外国人の問題ということで関心が低いと聞かれる。2年前外国人が集住する地域でも実施したが、そのときは11%。全体の1割くらいしか回答していない、その回答している中の1割くらいの方は積極的に関わっていききたいという結果なので、最低1%位の方は何かしら関わっていききたいということは分かった。

- クロス集計の年齢別のところで、書いてある部分の集計だけ見ても、若い人のほうがつき合いがあるとか、意識が高い様子も見られるので、その辺の優位性があれば、未来に希望を持てるような調査結果が出るのではないかと。
- 「外国人との交流を目的としたイベント」について、「参加したくない」というところをどうしていくか。集住地域よりも非集住地域の方が5%多くなっているのは、まだ付き合ったことのない人が今後期待をしているという表れだと思う。
 - ⇒ 非集住地域にはまだ可能性があるのではないかとということ。集住でも顔を合わせていればかなり関心が高い。
 - ⇒ 現時点で1%くらいの外国人がいる状態に対して、これから増えていくというときにきちんと日本人に対してアプローチをしておけば、受け入れ態勢も整ってくる。もう少し分析してみないと分からないが、日本人が二極化していると思います。かなり一生懸命やってきた人とそうでない人が分かれています。
- 集住地域には二極化が表れているということで、このあたりがクリアにどこかにでてくるか。
- 地域別の差がもう少しでるのではないかと想定していたが、ほぼこの地域でも差はないという結果になった。2年前の地域調査の結果にも似ていて、これがこれから施策を進めていくうえで基礎的な部分になるのだと思う。外国人住民との関わり方について、1割くらいの方は「積極的にしたい」、4割くらいは「最低限したほうがいい」、というこの5割の人を基礎に考えていくべきなのだった。
- 外国人の人権についての講座をやったことがあるが、参加者が少なかった。今年は料理と人権という内容にしたら、一日半で90人の募集が満員になった。あまり難しいことを言わずに、易しい手口から誘っていけば関心のある人が来てくれると思う。
- 外国人住民の様子についてよく分からないというのは本音だろう。知り合う機会や交流があれば、意外とうまくいく可能性はあるのではないかと。
 - ⇒ 「どこに住んでいるのかよくわからない」と思っている人ほど、安心・安全の地域づくりをしてほしいと思っていたり、「家族を大切にしている様子がうかがえる」という人は意外と「どこに住んでいるかわからない」と回答していなく、もう少し日本人の外国人理解も深めた方がいのかもしれない。知らないからこそラベルを貼ってしまう、という実態があり、知れば、あるいは働きかけがあればそのラベルがとれる可能性があるのか。
- 回答者は確かに50代60代が多かったが、若者が今後担い手になったり、管理職として外国人の方と接することが適当だと思っている人たちが行動を起こしやすい要因になっているのではないかと。
- 先ほど、料理や子育てというテーマにしたときにブレイクスルーが大事ではないかとあった。数が小さくてなかなか統計的な処理は難しいかもしれないが、他のところでいろいろ可能性があるか。
 - ⇒ 現在（外国人とのつき合いが実際に）どうであるかを見ると、どちらかという働いている現場のほうが接点が多い。経営者は「べき」だと思っていて、（現場で）働いている人は関わりがある。その辺りを分けて考えていけたらよい。
- 「外国人との関わりについて」で、多少なりとも「工業地域」が「積極的に関わったほうがいい」とか「必要最低限はしたほうがいい」とかでているのは、何か必要に迫らせてということもあるのか。

- ⇒ 外国人と付き合うことのメリットは何か、知らずのうちに皆考えており、外国人と付き合い合っただけでメリットを感じにくいというのは今の日本人の主観的なものだと思う。そういう状況で外国人と関わる、というのはある程度自分の生活や環境が安定している人は目が向くが、自分のことで精一杯の場合は目がいきにくいというのものもあるだろう。
- メリットがなければやらないというのは、外国人関係だけでなく、皆が少しずつ周りに目を向けるとかいう風に変えていくような働きかけが必要。メリットの有無でなく皆がやるという地域の働きかけが必要。
- どういう外国人が増えればというところだが、今一番問題になっている、定住外国人、単純労働、介護などの問題については比較的低い。観光客や高度人材のほうが指示されているように見える。こういう答えをしている人が、どういう意識や属性を持っている人たちなのか、という分析が今後の方向性を考える上で見て行けたらと思う。

多文化共生社会づくりに係わる各種主体に関する調査（リソース調査）中間報告〔資料2〕

・〔資料2〕について事務局より説明

- いろんな団体でノウハウをお持ちだと思うが、その分野がそれぞれ違う。調査の中でどういったところが得意なのか、またもう少しなのか、その辺がまとまってくるといい。
- それぞれの団体が今悩んでいることを他のところで解決すると、それはそれで自然と連携するようなデータになるようなこともあるのかと思う。
- この597の団体は、何らかのかたちで外国人と係わっている団体なのか。
 - ⇒ 国際交流とか多文化共生に係わる活動をしているということで、リストアップした。ただ実際は「うちは多文化共生の活動ではない」というところもかなりあった。
- 取り上げられたところが、データベースとして適切であるかという問題もあると思う。
- この結果を見ても、活動団体にしてもやっている割には消極的だと思う。もっと外に出て連携し、輪を広げていくべきだと思う。うちでも生活相談とかマニュアルを作っており、そういうのは渡すことができるから、各地域にそういう窓口ができればいいと思う。
 - ⇒ やはりそういう情報がまだ全くでていないから、団体によってはそういう情報が欲しいということがある。この中で団体を分類した上で、どういう団体がどういう意向があるか、という分析をきちんとやらなければならないと思う。
- このリソース調査は、調査が終わった後に各県、NPO等々に役立つものでないと、せっかく調べたものが生きてこないが、どういうふうになれば活用しやすくなるか。
 - ⇒ 多文化共生と国際交流は違うが、どうしても国際交流をしている団体が基礎になっているような気がする。多文化共生はすべての分野にまたがっていることなので、どういうふうに係わせていくかが、多文化共生の広がりにつながるのだと思う。「どのような場面で必要性を感じていますか」という質問で、「ネットワークづくり」が一番多い回答になっているが、どういう意味でのネットワークなのか、地域の中のネットワークなのか、広範囲のネットワークなのか、もう少し考えていくべきだと思う。
- 全部で8項目あって、「ネットワークづくり」だけ種類が違う気がする。その他は「内容」なのですが、「ネットワークづくり」だけ「方法」であって、「④ネットワークづくり」が多くなるのは当然。
- ネットワークづくりがされれば連携という形になるのだと思う。連携するためにはコーディネートをする人がいればという意見があったが、まさにこの会議などが先駆けになっていくの

ではないかと思う。

- 課題として「①人材が足りない」「②資金調達が難しい」が多いが、求めているのは「情報交換」、これはあきらめの部分なのか。
 - ⇒ 自分のところが苦しいから他のところからももらえないかということでは。これを見て行政が人や資金が足りないと感じて、国際協力に対する資金援助制度をつくっていただくとか。海外の国際協力への援助の制度はあるが、国内の外国人に対する助成の制度がないから、そういうのを考えてもらいたい。人材が足りないことに関してはボランティアや人づくりを、国や地域をあげて興してもらえれば、人も増えて資金面も楽になるのかと思う。お金は無理で、せめて情報交換くらいなのだと思う。
- リソース調査の全体像が見えにくいという問題点がある。やはり市町村の国際交流協会が中心になっていたようで、ヒアリング調査も1件を除いてすべて国際交流協会であることと、県の国際交流協会、市町村の国際交流協会、それぞれ役割が違っている。それから多様な主体をどのように整理したのかが分かりづらい部分。学生諸君が非常に頑張っていて、財団法人学生ボランティアセンターなどの情報相談とか、ものすごくたくさん活動している。そういうところを明示していただかないとやはり不満を感じる人がでてくるのではないかと思う。そういう点では他にも外国人が草の根的にやっているものが漏れているかもしれない。あくまでも各県の国際交流協会のホームページから抽出してものであるということは明記し、その限界や範囲を明示したうえで整理したほうがよい。
- 交流の場を増やすということでは学校と職場が非常に有効な場であるということは2年前の調査で明らかになり、この違いの中で地域の中の交流の場をどうしていったらいいのかは深化されていなかったところ。今回は成功例を探し出そうというものだったので、そこを「交流の場を増やしてほしい」で終わらせないで、地域の中でどのような交流の場ができていたのか、そこを書き込む必要がある。
- いろんな事例として調査ファイルがでてきたのではなくて、ここの団体を説明するときに多少強調点があってもいいのではないか。例えば継続性の高い団体はどういう団体で、どういう工夫をしていたのか、また地域ニーズに非常に対応できているという団体は、どのようなところで、それは何があったのか、行政との連携がうまくいっている団体はどうなのか、データツールを活用してうまく活動の場を広げているところはどうか、そういったある種の表題がついたような説明になると、団体も参照しやすいのではないかと思う。

多様な主体による災害対応事業・防災合同研修会報告〔資料3〕

・〔資料3〕について事務局より説明

- この災害時の外国人サポートは実際に広域連携で実践されている。北関東でも何ができるかというところで、実践例になっていければと思う。
- 現場では色々あるのだと思いつつも、現実感がでてこない。
- 北関東における災害の状況だとか、ある程度の基礎知識も必要になってくる。どこかで成功したからよいというわけではない。関東中央整備局との連携も不可欠である。
- 例えば行政のなかで、防災訓練などをやるときに組み込むとか、あるいはボランティアの方がいれば北関東以外のところで起きたときに手伝いにいくとか、踏み込んでやらないと、せっかくやっても生きてこないのではないかと思う。
- そういう意味では荒川の決壊とかでは切羽詰まったものがあるのかなと思う。そうするとまた情報提供が必要になってくる。

- 地域に住んでいる外国人の平均年齢は 30 代。被災者としての外国人の扱いはあるけれども、外国人にも高齢化した住民を助けてほしいという希望もある。いつでも外国人が被災者でなく、こういう時こそ外国人の力が欲しいという気がする。
- 一つの試みが、あくまで行政や災害が起きたときのサポートの形成にあるということで、アンケート調査の中にあっただ目に見えない外国人の存在とか、外国人住民キーパーソンをどう巻き込んでいくのが地域課題になる。
- 今回の防災は広域連携の一つの例示に過ぎないと考えている。災害に限らず、様々な分野で連携ができる、あるいは必要性があるのだろうということを、この調査で訴えられればよい。なぜ広域連携が必要なのか、その仕組みをどう作ったらいいのか、そのための今後の課題は何か、ということが報告できればよい。
- 災害緊急時の連絡体制は地震だけでなく、いろいろなルーツで連携が必要になってくるので、あくまでもそのきっかけ作りとして行政がどう関わっていくかということ。
- 「他の団体との連携・協働についてどのように考えていますか」とありますが、「連携・協働することで、大きな力が生まれ目的達成に向けた活動ができる」ということが本来の広域連携の意味合いだと思う。その手段として情報交換や必要な研修をお互いにやりましょうということ。
- コーディネーターの必要性というあたりでは、実際の事務局が北関東の調査をコーディネートされてきて、そのあたりのご苦労もあると思う。
 - ⇒ 今回は群馬県が主体ということで、やはり群馬県と県の国際交流協会の関係、市町村と市町村の国際交流協会の関係、というのが一つある。それと他の 3 県とは全く違う。そこをきちんと分かった上で、どうやって連携をするのか、誰がやっていくか、ということは今回やってよくわかった。
- 研修のなかで、そういった点は参加者から自発的に出てきたか。
 - ⇒ こうするべきだというよりは、今こういう問題があるという中で、「私たちのボランティア団体と協会との関係でいろいろ問題点がある」といったことは出てきた。こういった調査では当然いろんな県といろんなセクターの人と決定していかなければならない。この広域ブロック推進調査は首都圏でもあると思いますが、他の調査では連携のやりかたという部分で、何か工夫をされていたりすることはあるか。
 - ⇒ 地域での繋がりというのはあっても、広域的な連携、例えば首都圏全体で広域で取り組んできたことが今までないので、今回北関東のほうが進んでいるような気がする。
- 広域連携がよりスムーズに行くためには、それぞれの県が当たり前だと思っていたやり方はそうではないというものがいろいろ出てくるのでそこをどう調整していくのかということ。その違いを認識するには、全体を見る人が来るということも一つの方法かもしれないし、またそれぞれの県が輪番制でやっていくことで築き上げていくということもいいかもしれない。システムの違いなどを考えると一枚岩ではいかないだろうが、地域性をしっかりと見極めながらやっていく必要があるということ。
- 実際に外国人が困るのは避難所に入ってからです。訓練は日本人と外国人が一緒にやるものでそれほど差がないが、避難所に入ってから日本人と外国人の差がでてきて、私たちが活躍できるのは通訳や翻訳の部門になる。そこでどう絡むかということで今回は避難所訓練を実際にボランティアの人にやってもらうということ。そこで IT を使って遠隔地における通訳のシステム等を検証できればと思う。そういうことができれば、地域の連携に繋がるのではないかと考えている。

- 今こういう不景気の時代になったら私たちのところにも名古屋や新潟などあちこちから外国人が流れてくる。そういうときこそ、本当に連携が欲しくなる。
- 外国人だけでなく日本人にも同じような問題があって、その連携の仕組みができていないのであろう。
- DVならDVでどこに行けばいいというのはあるのだと思うが、外国人というだけで行き場がなくなってしまう。今回の調査はそういう意味で、そういったところを県や国際協会が連携できるような仕組みができればいいというイメージ。
- 多文化共生に係わる団体だけの連携ではなく、行政とかいろんな機関がいろいろ入ってきている。今後はそういった多様な主体にそれ以外の機関がどう係わるのかというの分析できるとよい。

本調査の実施状況及び今後のスケジュールについて [資料4] [資料5]

- ・ [資料4] [資料5] について事務局より説明

〇〇地区

北関東圏における多文化共生の地域づくり調査

茨城県生活環境部国際課、栃木県産業労働観光部国際課、群馬県生活文化部国際課、埼玉県県民生活部国際課

【アンケートご協力のお願い】

平素から行政へのご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

現在、国、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県の共同で、外国人と日本人がともに安心して暮せる地域をつくるための調査研究を実施しています。

このアンケートは、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県の中から、〇〇市〇〇地区等 24 地区を代表地区として選ばせていただき、地区内にお住まいの日本人の世帯のみなさまに配布させていただきました。

質問内容は、日本人が外国人とともに生活すること（多文化共生）に対する見方、考え方、地域生活のあり方等についてお聞きしており、全部で 26 問の構成となっております。

調査結果は、多文化共生の地域づくりに向け、今後必要な取組を検討するために活用させていただきます。なお、ご回答いただいた内容は、統計処理されるので、個人が特定されることはありません。

お忙しい中大変恐縮ですが、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

調査票の回答方法について

ご記入の調査票は、同封の返信用封筒に入れていただき、2月12日までに郵便ポストにご投函ください。（切手は不要）

* 外国人の世帯の方は、対象ではありません。もし、この票が届きましたら、記入なさらずに破棄してください。

【お問い合わせ先】

調査機関;ランドブレイン株式会社 [担当]佐藤、村上、兼城

電話番号;03-3263-9386(月~金)10:00~17:00

住 所;〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-2-10 平河町第1生命ビル7階

I. あなたの地域についてうかがいます

Q 1 あなたは、現在の地域にどれくらい住んでいますか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年～3年未満 |
| 3. 3年～5年未満 | 4. 5年～10年未満 |
| 5. 10年～20年未満 | 6. 20年～30年未満 |
| 7. 30年以上 | |

Q 2 あなたの現在のお住まいの種類について、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| 1. 持家（一戸建て） | 2. 持家（集合住宅） |
| 3. 民間の借家（一戸建て、集合住宅） | 4. 供給住宅（社宅、公務員住宅） |
| 5. 公営の借家（都市再生機構（公団）、住宅供給公社、県営住宅など） | |
| 6. 借間、下宿 | 7. 住み込み、寄宿舎、独身寮など |
| 8. その他 | |

Q 3 現在住んでいる地域に、あなたは愛着を感じていますか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 愛着を感じている | 2. どちらかというとな愛着を感じている |
| 3. どちらかというとな愛着を感じていない | 4. 愛着を感じていない |

Q 4 あなたは、これからも現在の地域に住みたいと思いますか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. ずっと住みたい | 2. 当分の間は住みたい |
| 3. できれば引越したい | 4. すぐにも引越したい |

Q 5 あなたが住む地域では、外国人の方と顔を合わせることはありませんか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. よくある | 2. 時々ある | 3. あまりない | 4. 全くない |
|---------|---------|----------|---------|

Q 6 あなたが住む地域の住民の活動の様子について、教えて下さい。A～Hそれぞれについてあてはまる番号ひとつに○をつけてください。

【番号の説明】

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 活動が活発だと思ふ | 2. ときどき活動していると思ふ |
| 3. ほとんど活動が行われていないと思ふ | |
| 4. そのような活動は行われていないと思ふ | 5. わからない |

- A. 清掃活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- B. 子どもたちの健全育成に関する活動 . . 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- C. 防犯活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- D. 防災活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- E. 趣味などのグループ活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- F. 子育てサークルの活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- G. 外国人住民との交流活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- H. お祭りなどの地域活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5

Q 7 あなたの住む地域の様子について教えてください。A～Gそれぞれについてあてはまる番号ひとつに○をつけてください。

【番号の説明】
 1. あてはまる 2. どちらでもない 3. あてはまらない 4. わからない

- A. ゴミ出し等地域のルールが守られている 1 . . 2 . . 3 . . 4
- B. あいさつがよくかわされる 1 . . 2 . . 3 . . 4
- C. お年寄りが交流できる場がある 1 . . 2 . . 3 . . 4
- D. 隣近所の関係が良好である 1 . . 2 . . 3 . . 4
- E. 都会からの転入者が多い 1 . . 2 . . 3 . . 4
- F. 外国人住民に対して気軽に話しかけられる 1 . . 2 . . 3 . . 4
- G. 地域の活動に参加する人たちが多 1 . . 2 . . 3 . . 4

Ⅱ. 地域での暮らし方についてうかがいます

Q 8 あなた自身は地域の活動にどのくらい参加していますか。A～Hそれぞれについてあてはまる番号ひとつに○をつけてください。

【番号の説明】
 1. よく参加している 2. ときどき参加している
 3. あまり参加していない 4. まったく参加していない 5. わからない

- A. 清掃活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- B. 子どもたちの健全育成に関する活動 . . 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- C. 防犯活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- D. 防災活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- E. 趣味などのグループ活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- F. 子育てサークルの活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- G. 外国人住民との交流活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5
- H. お祭りなどの地域活動 1 . . 2 . . 3 . . 4 . . 5

Q9 あなたは地域で生活を送る上で、つぎのような意見についてどう思いますか。
A～Dそれぞれについてあてはまる番号ひとつに○をつけてください。

【番号の説明】
 1. 賛成 2. どちらでもない 3. 反対 4. わからない

- A. 郷に入りては郷に従え 1 .. 2 .. 3 .. 4
 B. 家族と一緒に暮らすことが望ましい 1 .. 2 .. 3 .. 4
 C. 日本人も外国語は少なくとも1カ国語は
 マスターしておいたほうが良い 1 .. 2 .. 3 .. 4
 D. 地域の生活が変化しないように、
 これまでの地域のルールを守るべきだ 1 .. 2 .. 3 .. 4

Ⅲ. 地域における外国人住民とのつきあいについてうかがいます

Q10 あなたは外国人と以下のようなつき合いがありますか。あてはまる番号すべてに
 ○をつけてください（過去の経験も含む）。

1. 一緒に働いている（働いていた）
2. 学校で一緒に勉強している（していた）
3. 友人としてつき合っている（つき合っていた）
4. 自分または親せきが、外国人と結婚して日本に住んでいる（住んでいた）
5. 国際交流のグループで一緒に活動している（していた）
6. 地域活動と一緒に参加している（していた）
7. 外国人とあいさつ程度のつき合いはある（あった）
8. 子どもの学校を通じた交流がある（あった）
9. 外国人の知り合いはいないし、つき合ったこともない
10. その他（具体的に _____)

Q11 あなたがお住まいの地域の外国人住民の方々の様子について、あてはまる番号すべてに
 ○をつけて下さい。

1. 生活時間帯が違うようだ
2. 家族を大切にしている様子がうかがえる
3. どこに住んでいるのかよくわからない
4. よくあいさつをしてくれる
5. 地域の活動に参加している
6. 引っ越してきたときに、家まであいさつに来てくれた
7. いつの間にか転居してしまった

- 8. 地域にとけ込んでいる
- 9. 仕事熱心なようだ
- 10. 母国の話をしてくれた
- 11. その他（具体的に _____)

Q12 県や市町村、国際交流協会等が開催する、外国人との交流を目的としたイベント（文化交流など）や、外国人への生活支援の取り組み（日本語教室など）に**参加した**ことはありますか。あてはまる番号ひとつに○をつけて下さい。

- 1. たびたび参加している
- 2. たまに参加する・参加したことがある
- 3. 参加したことはない

Q13 県や市町村、国際交流協会等が開催する、外国人との交流を目的としたイベント（文化交流など）や、外国人への生活支援の取り組み（日本語教室など）に**今後参加したい**と思われますか。あてはまる番号ひとつに○をつけて下さい。

- 1. 参加したい
- 2. 参加したくない
- 3. わからない

S Q13-1 「2」または「3」に○をつけた方にうかがいます。

どのような条件があれば、参加しやすいですか。あなたにとって**最も大きなきっかけになる**だろうと思われる番号ひとつに○をつけて下さい。

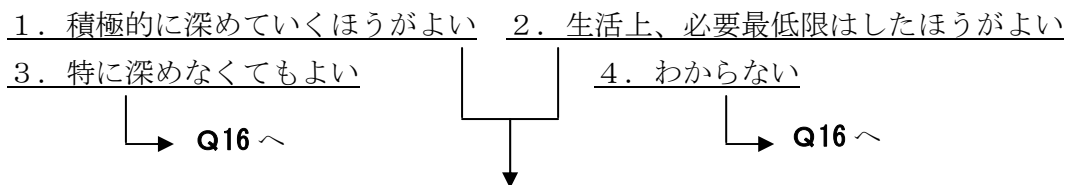
- 1. 友だちからの誘いがあれば
- 2. 自分の関心のある内容であれば（例： _____)
- 3. 時間が合えば
- 4. 場所が近ければ
- 5. 自分の特技が活かされれば
- 6. その他の条件があれば（具体的に _____)
- 7. どんな条件があっても参加したくない

Q14 あなたがお住まいの地域に外国人住民が増えると、つぎのような状況が生まれると思いますか。A～Pそれぞれについて、「はい」または「いいえ」どちらかに○をつけてください。

- A. 外国の文化・風習に触れる機会が増える . . . はい いいえ
- B. 外国人の友人ができる はい いいえ
- C. 日本固有の文化がそこなわれる はい いいえ
- D. 地域の生活ルールを再確認できる はい いいえ

- E. 地域の活性化につながる・・・・・・・・・・ はい 　　いいえ
- F. 異文化に対する偏見がなくなる・・・・・・・・・・ はい 　　いいえ
- G. 意思疎通ができないのではと不安になる・・・・・・・・・・ はい 　　いいえ
- H. 治安・風紀が乱れる・・・・・・・・・・ はい 　　いいえ
- I. 労働力が補充される・・・・・・・・・・ はい 　　いいえ
- J. 外国人住民がかたまって生活する場が生まれる・ はい 　　いいえ
- K. 国際結婚が増える・・・・・・・・・・ はい 　　いいえ
- L. 外国人住民を地域の一員だと考えるようになる・ はい 　　いいえ
- M. 自分たちの雇用機会が奪われるのでは
　　ないかと不安になる・・・・・・・・・・ はい 　　いいえ
- N. 教育・福祉・住宅などの受け入れ整備の
　　ために税金からの負担が増す・・・・・・・・・・ はい 　　いいえ
- O. 名前や顔のわからない外国人住民が増える・・・・・・・・・・ はい 　　いいえ
- P. その他（具体的に： ・・・・・・・・・・ ）

Q15 お住まいの地域では、外国人住民との関わりは深めるべきだと思いますか。
あてはまる番号ひとつに○をつけて下さい。



S Q15-1 **Q15で「1」または「2」に○をつけた方**にうかがいます。
お住まいの地域で、外国人住民との関わりを深めるべきと思われる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

1. 外国人住民にも地域活動に参加してもらうため
2. 災害時や緊急のときに連絡をとりあえるようにするため
3. 安全・安心の地域づくりを進めるため
4. 冠婚葬祭などでの助け合いのため
5. 外国人住民にも地域のルールを理解してもらいたいため
6. 日本人住民の外国人住民への理解を深めるため
7. その他（具体的に ・・・・・・・・・・ ）

↓
回答後、Q16へ

Q16 あなた自身は、お住まいの地域で外国人とどのように関わっていきたいですか。
あてはまる番号ひとつに○をつけて下さい。

- 1. 積極的に関わっていきたい
- 2. 今くらいの関わり方でよい
- 3. あまり関わらないようにしたい・関心がない

S Q16-1 **Q16で「1」または「2」に○をつけた方**

うかがいます。

あなた自身が、お住まいの地域で外国人と関わっていかう
と思う理由はどのようなものですか。あてはまる番号
すべてに○をつけて下さい。

- 1. 外国人住民が近所に住んでいるから
- 2. 外国人住民と同じ職場だから
- 3. 外国人の友人が欲しいから
- 4. 外国の文化や言葉を学びたいから
- 5. 地域の外国人住民が困っている様子だから
- 6. 外国人住民が地域にとって必要だから
- 7. 国際人として自分も何かしたいから
- 8. その他（具体的に)

↓
回答後、**Q17**へ

S Q16-2 **Q16で「3」に○をつけた方**うかがいます。

どのような状況があれば関わろうと考えますか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1. 外国人住民との間にことばの問題がなくなれば
- 2. 外国人住民が地域にとけ込もうとするなら
- 3. 外国人住民に親しくしてもらったら
- 4. その他（具体的に)
- 5. どのような状況でも関わりたくない

↓
回答後、**Q17**へ

Q17 どのような機会を通して外国人住民と関わりたいですか。あてはまる番号
すべてに○をつけて下さい。

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 日常的なあいさつ | 2. 地域の活動（自治会の清掃、祭りなど） |
| 3. 同じ職場・学校での交流 | 4. 子どもの学校を通じた親同士の交流 |
| 5. 行政等が行う国際交流のイベント | |
| 6. 外国人住民への支援活動（日本語教室など） | |
| 7. 防災訓練 | 8. 趣味のグループやサークルの活動 |
| 9. 友人・家族との私的な交流 | |
| 10. その他（具体的に | ） |

Q18 外国人住民があなたのお住まいの地域で生活していくうえで、ぜひ、してほしい
と思うことは何でしょうか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 十分な日本語の習得 | 2. 地域の生活ルールを守る |
| 3. 子どもの教育をきちんと行う | 4. 地域活動に参加する |
| 5. 母国の文化や習慣を日本人に教える | 6. 母国のことばを日本人に教える |
| 7. 外国人住民同士で助け合う | |
| 8. 地域の人に生活上の悩みを気軽に相談する | |
| 9. あいさつなど基本的な生活習慣を身につける | |
| 10. その他（具体的に | ） |

Q19 日本でつぎのようなかたちで外国人が増えることについて、あなたはどのように
考えますか。A～Eのそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○をつけてくだ
さい。

【番号の説明】

- | | | |
|-------------------|-----------------|----------|
| 1. 好ましい | 2. どちらかといえば好ましい | |
| 3. どちらかといえば好ましくない | 4. 好ましくない | 5. わからない |

- | | | | | | | |
|--|-------|---|-----|-----|-----|-----|
| A. 日本にやってきた外国人のなかで
定住する人たちが増えること | | 1 | ..2 | ..3 | ..4 | ..5 |
| B. 日本にやってきた外国人のなかで
日本国籍を取得する人たちが増えること | | 1 | ..2 | ..3 | ..4 | ..5 |
| C. 高度な専門知識や技術をもつ外国人が日本で
働くようになること | | 1 | ..2 | ..3 | ..4 | ..5 |
| D. 工場などで単純労働を行う外国人が
増えること | | 1 | ..2 | ..3 | ..4 | ..5 |

- E. 介護・看護等の領域で働く外国人が増えること …… 1 .. 2 .. 3 .. 4 .. 5
- F. 日本の文化や芸術などを学ぶために日本で生活する外国人が増えること …… 1 .. 2 .. 3 .. 4 .. 5
- G. 海外の文化や芸術を紹介するために来日する外国人が増えること …… 1 .. 2 .. 3 .. 4 .. 5
- H. 日本人と結婚して日本に住む外国人が増えること …… 1 .. 2 .. 3 .. 4 .. 5
- I. 外国からの観光客が増えること …… 1 .. 2 .. 3 .. 4 .. 5

IV. 最後にあなたについてうかがいます

- Q20 あなたの性別は？ 1. 男性 2. 女性
- Q21 あなたの年齢は？ () 歳 (平成 21 年 1 月 1 日現在)
- Q22 あなたはお仕事をしていますか。あてはまる番号ひとつに○をつけて下さい。
1. はい →Q23 と Q24 を回答して下さい。
2. いいえ →Q25 にお進み下さい。
- Q23 あなたのお仕事は大きく分けてつぎのどれにあたりますか？
1. 自営業主 (自由業を含む)
 2. 家族従業者
 3. 内職
 4. 経営者・役員
 5. 管理職
 6. 常時雇用されている一般従業者
 7. パート・アルバイト・臨時雇い・契約社員
 8. 派遣社員
- Q24 あなたのお仕事の内容はつぎのどれにあたりますか？
1. 専門知識や技能を活かした仕事 (教員、看護師、技術者など)
 2. 管理的な仕事 (課長以上の管理職)
 3. 事務的な仕事 (管理・企画・販売・経理に関わる事務、秘書など)
 4. 営業・販売の仕事 (セールス、店員、生命保険外交員など)
 5. サービスの仕事 (美容師、調理師、接客など)
 6. 農林業の仕事
 7. 保安の仕事 (警備員など)
 8. 運輸・通信の仕事 (運転者・郵便配達員など)
 9. 製造・技能・労務の仕事 (工員など)
 10. その他 (具体的に)

Q25 あなたと同居されているご家族についてうかがいます。

(1)同居されているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか？

() 人

(2)上記(1)で2人以上を記入された方にうかがいます。同居されているご家族は、つぎのうちのどなたですか？あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 配偶者 2. 親 3. 配偶者の親 4. 息子 5. 娘
6. 子どもの配偶者 7. 孫 8. 孫の配偶者 9. その他 ()

(3)保育所や学校等に通っているご家族と同居されている方にうかがいます。

どこに通っているのか、該当する番号すべてに○をつけてください。

1. 保育所 2. 幼稚園 3. 小学校 3. 中学校 5. 高校
6. その他 ()

Q26 あなたのご家庭は自治会に入っていますか。

1. はい 2. いいえ

以上です。大変お疲れ様でした。アンケートへのご協力に深く感謝申し上げます。

4. 日本人住民の意識把握のためのアンケート調査 単純集計

■【Q1】あなたは、現在の地域にどれくらい住んでいますか。〈SA〉

	(7)	Q1-1	Q1-2	Q1-3	Q1-4	Q1-5	Q1-6	Q1-7	Q1-8	Q1-9
	全 体	1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～20年未満	20年～30年未満	30年以上	不明	非該当
件数	1751	51	91	84	134	216	298	850	27	0
%	100.0	2.9	5.2	4.8	7.7	12.3	17.0	48.5	1.5	0.0

■【Q2】あなたの現在のお住まいの種類について、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。〈SA〉

	(8)	Q2-1	Q2-2	Q2-3	Q2-4	Q2-5	Q2-6	Q2-7	Q2-8	Q2-9	Q2-10
	全 体	持家（一戸建て）	持家（集合住宅）	民家の借家（一戸建て、集	供給住宅（社宅、公務員住	公営の借家（都市再生機構	借間、下宿	住み込み、寄宿舎、独身	その他	不明	非該当
件数	1751	1356	53	227	16	58	8	2	6	25	0
%	100.0	77.4	3.0	13.0	0.9	3.3	0.5	0.1	0.3	1.4	0.0

■【Q3】現在住んでいる地域に、あなたは愛着を感じていますか。〈SA〉

	(4)	Q3-1	Q3-2	Q3-3	Q3-4	Q3-5	Q3-6
	全 体	愛着を感じている	どちらかという愛着を感じる	どちらかという愛着を感じていない	愛着を感じていない	不明	非該当
件数	1751	885	642	137	56	31	0
%	100.0	50.5	36.7	7.8	3.2	1.8	0.0

■【Q4】あなたは、これからも現在の地域に住みたいと思いますか。〈SA〉

	(4)	Q4-1	Q4-2	Q4-3	Q4-4	Q4-5	Q4-6
	全 体	ずっと住みたい	自分の間は住みたい	できれば引越したい	すぐにも引越したい	不明	非該当
件数	1751	1006	539	147	21	38	0
%	100.0	57.5	30.8	8.4	1.2	2.2	0.0

■【Q5】あなたが住む地域では、外国人の方と顔を合わせることがありますか。〈SA〉

	(4)	Q5-1	Q5-2	Q5-3	Q5-4	Q5-5	Q5-6
	全 体	よくある	時々ある	あまりない	全くない	不明	非該当
件数	1751	484	603	427	211	26	0
%	100.0	27.6	34.4	24.4	12.1	1.5	0.0

■【Q6-1】A. 清掃活動〈SA〉

	(5)	Q6-1-1	Q6-1-2	Q6-1-3	Q6-1-4	Q6-1-5	Q6-1-6	Q6-1-7
	全 体	活動が活発だと思う	ときどき活動していると思	ほとんど活動が行われてい	そのような活動は行われて	わからない	不明	非該当
件数	1751	573	815	118	46	75	124	0
%	100.0	32.7	46.5	6.7	2.6	4.3	7.1	0.0

■【Q6-2】B. 子どもたちの健全育成に関する活動〈SA〉

	(5)	Q6-2-1	Q6-2-2	Q6-2-3	Q6-2-4	Q6-2-5	Q6-2-6	Q6-2-7
	全 体	活動が活発だと思う	ときどき活動していると思	ほとんど活動が行われてい	そのような活動は行われて	わからない	不明	非該当
件数	1751	428	713	180	41	221	168	0
%	100.0	24.4	40.7	10.3	2.3	12.6	9.6	0.0

■【Q6-3】C. 防犯活動〈SA〉

	(5)	Q6-3-1	Q6-3-2	Q6-3-3	Q6-3-4	Q6-3-5	Q6-3-6	Q6-3-7
	全 体	活動が活発だと思う	ときどき活動していると思	ほとんど活動が行われてい	そのような活動は行われて	わからない	不明	非該当
件数	1751	380	669	294	80	164	164	0
%	100.0	21.7	38.2	16.8	4.6	9.4	9.4	0.0

■【Q6-4】D. 防災活動〈SA〉

	(5)	Q6-4-1	Q6-4-2	Q6-4-3	Q6-4-4	Q6-4-5	Q6-4-6	Q6-4-7
	全 体	活動が活発だと思う	ときどき活動していると思	ほとんど活動が行われてい	そのような活動は行われて	わからない	不明	非該当
件数	1751	255	666	361	112	173	184	0
%	100.0	14.6	38.0	20.6	6.4	9.9	10.5	0.0

■【Q6-6】 F. 子育てサークルの活動 <SA>

	(5)	Q6-6-1	Q6-6-2	Q6-6-3	Q6-6-4	Q6-6-5	Q6-6-6	Q6-6-7
	全 体	活動が活発だと思 う	ときどき活動して いると思	ほとんど活動が行 われてい	そのよう な活動は 行われて	わから ない	不明	非該当
件 数	1751	137	444	337	181	465	187	0
%	100.0	7.8	25.4	19.2	10.3	26.6	10.7	0.0

■【Q6-7】 G. 外国人住民との交流活動 <SA>

	(5)	Q6-7-1	Q6-7-2	Q6-7-3	Q6-7-4	Q6-7-5	Q6-7-6	Q6-7-7
	全 体	活動が活発だと思 う	ときどき活動して いると思	ほとんど活動が行 われてい	そのよう な活動は 行われて	わから ない	不明	非該当
件 数	1751	35	149	312	512	539	204	0
%	100.0	2.0	8.5	17.8	29.2	30.8	11.7	0.0

■【Q6-8】 H. お祭りなどの地域活動 <SA>

	(5)	Q6-8-1	Q6-8-2	Q6-8-3	Q6-8-4	Q6-8-5	Q6-8-6	Q6-8-7
	全 体	活動が活発だと思 う	ときどき活動して いると思	ほとんど活動が行 われてい	そのよう な活動は 行われて	わから ない	不明	非該当
件 数	1751	686	681	123	56	69	136	0
%	100.0	39.2	38.9	7.0	3.2	3.9	7.8	0.0

■【Q7-1】 A. ゴミ出し等地域のルールが守られている <SA>

	(4)	Q7-1-1	Q7-1-2	Q7-1-3	Q7-1-4	Q7-1-5	Q7-1-6
	全 体	あてはま る	どちらで もない	あてはま らない	わから ない	不明	非該当
件 数	1751	1345	209	99	30	68	0
%	100.0	76.8	11.9	5.7	1.7	3.9	0.0

■【Q7-2】 B. あいさつがよくかわされる <SA>

	(4)	Q7-2-1	Q7-2-2	Q7-2-3	Q7-2-4	Q7-2-5	Q7-2-6
	全 体	あてはま る	どちらで もない	あてはま らない	わから ない	不明	非該当
件 数	1751	914	534	142	54	107	0
%	100.0	52.2	30.5	8.1	3.1	6.1	0.0

■【Q7-3】 C. お年寄りが交流できる場がある <SA>

	(4)	Q7-3-1	Q7-3-2	Q7-3-3	Q7-3-4	Q7-3-5	Q7-3-6
	全 体	あてはま る	どちらで もない	あてはま らない	わから ない	不明	非該当
件 数	1751	786	335	158	360	112	0
%	100.0	44.9	19.1	9.0	20.6	6.4	0.0

■【Q7-4】 D. 隣近所の関係が良好である <SA>

	(4)	Q7-4-1	Q7-4-2	Q7-4-3	Q7-4-4	Q7-4-5	Q7-4-6
	全 体	あてはま る	どちらで もない	あてはま らない	わから ない	不明	非該当
件 数	1751	802	558	161	117	113	0
%	100.0	45.8	31.9	9.2	6.7	6.5	0.0

■【Q7-5】 E. 都会からの転入者が多い <SA>

	(4)	Q7-5-1	Q7-5-2	Q7-5-3	Q7-5-4	Q7-5-5	Q7-5-6
	全 体	あてはま る	どちらで もない	あてはま らない	わから ない	不明	非該当
件 数	1751	132	309	649	515	146	0
%	100.0	7.5	17.6	37.1	29.4	8.3	0.0

■【Q7-6】 F. 外国人住民に対して気軽に話しかけられる <SA>

	(4)	Q7-6-1	Q7-6-2	Q7-6-3	Q7-6-4	Q7-6-5	Q7-6-6
	全 体	あてはま る	どちらで もない	あてはま らない	わから ない	不明	非該当
件 数	1751	111	304	669	527	140	0
%	100.0	6.3	17.4	38.2	30.1	8.0	0.0

■【Q8-2】 B. 子どもたちの健全育成に関する活動 <SA>

	(5)	Q8-2-1	Q8-2-2	Q8-2-3	Q8-2-4	Q8-2-5	Q8-2-6	Q8-2-7
	全 体	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	わからない	不明	非該当
件 数	1751	202	333	373	560	147	136	0
%	100.0	11.5	19.0	21.3	32.0	8.4	7.8	0.0

■【Q8-3】 C. 防犯活動 <SA>

	(5)	Q8-3-1	Q8-3-2	Q8-3-3	Q8-3-4	Q8-3-5	Q8-3-6	Q8-3-7
	全 体	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	わからない	不明	非該当
件 数	1751	212	278	418	589	129	125	0
%	100.0	12.1	15.9	23.9	33.6	7.4	7.1	0.0

■【Q8-4】 D. 防災活動 <SA>

	(5)	Q8-4-1	Q8-4-2	Q8-4-3	Q8-4-4	Q8-4-5	Q8-4-6	Q8-4-7
	全 体	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	わからない	不明	非該当
件 数	1751	158	270	445	601	134	143	0
%	100.0	9.0	15.4	25.4	34.3	7.7	8.2	0.0

■【Q8-5】 E. 趣味などのグループ活動 <SA>

	(5)	Q8-5-1	Q8-5-2	Q8-5-3	Q8-5-4	Q8-5-5	Q8-5-6	Q8-5-7
	全 体	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	わからない	不明	非該当
件 数	1751	229	269	318	695	117	123	0
%	100.0	13.1	15.4	18.2	39.7	6.7	7.0	0.0

■【Q8-6】 F. 子育てサークルの活動 <SA>

	(5)	Q8-6-1	Q8-6-2	Q8-6-3	Q8-6-4	Q8-6-5	Q8-6-6	Q8-6-7
	全 体	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	わからない	不明	非該当
件 数	1751	50	124	297	909	228	143	0
%	100.0	2.9	7.1	17.0	51.9	13.0	8.2	0.0

■【Q8-7】 G. 外国人住民との交流活動 <SA>

	(5)	Q8-7-1	Q8-7-2	Q8-7-3	Q8-7-4	Q8-7-5	Q8-7-6	Q8-7-7
	全 体	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	わからない	不明	非該当
件 数	1751	20	45	188	1022	324	152	0
%	100.0	1.1	2.6	10.7	58.4	18.5	8.7	0.0

■【Q8-8】 H. お祭りなどの地域活動 <SA>

	(5)	Q8-8-1	Q8-8-2	Q8-8-3	Q8-8-4	Q8-8-5	Q8-8-6	Q8-8-7
	全 体	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	わからない	不明	非該当
件 数	1751	454	538	278	310	64	107	0
%	100.0	25.9	30.7	15.9	17.7	3.7	6.1	0.0

■【Q9-1】 A. 郷に入りては郷に従え <SA>

	(4)	Q9-1-1	Q9-1-2	Q9-1-3	Q9-1-4	Q9-1-5	Q9-1-6
	全 体	賛成	どちらでもない	反対	わからない	不明	非該当
件 数	1751	850	647	95	50	109	0
%	100.0	48.5	37.0	5.4	2.9	6.2	0.0

■【Q9-2】 B. 家族と一緒に暮らすことが望ましい <SA>

	(4)	Q9-2-1	Q9-2-2	Q9-2-3	Q9-2-4	Q9-2-5	Q9-2-6
	全 体	賛成	どちらでもない	反対	わからない	不明	非該当
件 数	1751	1173	434	22	37	85	0
%	100.0	67.0	24.8	1.3	2.1	4.9	0.0

■【Q9-2】B. 家族と一緒に暮らすことが望ましい <SA>

	(4)	Q9-2-1	Q9-2-2	Q9-2-3	Q9-2-4	Q9-2-5	Q9-2-6
	全体	賛成	どちらでもない	反対	わからない	不明	非該当
件数	1751	1173	434	22	37	85	0
%	100.0	67.0	24.8	1.3	2.1	4.9	0.0

■【Q9-3】C. 日本人も外国語は少なくとも1か国語はマスターしておいたほうがいい <SA>

	(4)	Q9-3-1	Q9-3-2	Q9-3-3	Q9-3-4	Q9-3-5	Q9-3-6
	全体	賛成	どちらでもない	反対	わからない	不明	非該当
件数	1751	899	555	56	139	102	0
%	100.0	51.3	31.7	3.2	7.9	5.8	0.0

■【Q9-4】D. 地域の生活環境が変化しないように、これまでの地域のルールを守るべきだ <SA>

	(4)	Q9-4-1	Q9-4-2	Q9-4-3	Q9-4-4	Q9-4-5	Q9-4-6
	全体	賛成	どちらでもない	反対	わからない	不明	非該当
件数	1751	687	759	128	84	93	0
%	100.0	39.2	43.3	7.3	4.8	5.3	0.0

■【Q10】あなたは外国人と以下のようなつき合いがありますか。 <MA>

	(10)	Q10-1	Q10-2	Q10-3	Q10-4	Q10-5	Q10-6	Q10-7	Q10-8	Q10-9	Q10-10	Q10-11	Q10-12
	全体	一緒に働いている(働いて)	学校で一緒に勉強している	友人としてのつき合っている	自分または親せきが、外国	国際交流のグループと一緒に	地域活動に参加して	外国人とあいさつ程度	子どもの学校を通じて	外国人の知り合いはいない	その他	不明	非該当
件数	1751	346	105	268	149	59	80	518	171	650	141	190	0
%	100.0	19.8	6.0	15.3	8.5	3.4	4.6	29.6	9.8	37.1	8.1	10.9	0.0

■【Q11】あなたがお住まいの地域の外国人住民の方々の様子について <MA>

	(11)	Q11-1	Q11-2	Q11-3	Q11-4	Q11-5	Q11-6	Q11-7	Q11-8	Q11-9	Q11-10	Q11-11	Q11-12
	全体	生活時間帯が違ふよう	家族を大切にしている様子	どこに住んでいるのかよく	よくあいさつしてくれる	地域の活動に参加している	引越してきたときに、家	いつの間にか転居して	地域にどれだけ入っている	仕事熱心なよう	母国の話をしてく	その他	不明
件数	1751	224	392	683	256	75	37	243	130	241	120	121	424
%	100.0	12.8	22.4	39.0	14.6	4.3	2.1	13.9	7.4	13.8	6.9	6.9	24.2

	Q11-13
	非該当
件数	0
%	0.0

■【Q12】県や市町村、国際交流協会等が開催する、外国人との交流を目的としたイベント(文化交流など)や、外国人への生活支援の取り組み(日本語教室など)に参加したことはありますか。 <SA>

	(3)	Q12-1	Q12-2	Q12-3	Q12-4	Q12-5
	全体	たびたび参加している	たまに参加する・参加した	参加したことはない	不明	非該当
件数	1751	19	130	1518	84	0
%	100.0	1.1	7.4	86.7	4.8	0.0

■【Q13】県や市町村、国際交流協会等が開催する、外国人との交流を目的としたイベント(文化交流など)や、外国人への生活支援の取り組み(日本語教室など)に今後参加したいと思われますか。 <SA>

	(3)	Q13-1	Q13-2	Q13-3	Q13-4	Q13-5
	全体	参加したい	参加したくない	わからない	不明	非該当
件数	1751	376	301	869	205	0
%	100.0	21.5	17.2	49.6	11.7	0.0

■【Q13-1】どのような条件があれば、参加しやすいですか。 <SA>

	(7)	Q13-1-1	Q13-1-2	Q13-1-3	Q13-1-4	Q13-1-5	Q13-1-6	Q13-1-7	Q13-1-8	Q13-1-9
	全体	友だちからの誘いがあれば	自分の関心のある内容であれば	時間が合えば	場所が近ければ	自分の特技が活かされれば	その他の条件があれば	どんな条件があっても参加	不明	非該当
件数	1751	262	235	182	108	76	52	170	85	581
%	100.0	15.0	13.4	10.4	6.2	4.3	3.0	9.7	4.9	33.2

■【Q14-1】 A. 外国の文化・風習に触れる機会が増える <SA>

	(2)	Q14-1-1	Q14-1-2	Q14-1-3	Q14-1-4
	全 体	はい	いいえ	不明	非該当
件 数	1751	1242	337	172	0
%	100.0	70.9	19.2	9.8	0.0

■【Q14-2】 B. 外国人の友人ができる <SA>

	(2)	Q14-2-1	Q14-2-2	Q14-2-3	Q14-2-4
	全 体	はい	いいえ	不明	非該当
件 数	1751	1086	460	205	0
%	100.0	62.0	26.3	11.7	0.0

■【Q14-3】 C. 日本固有の文化がそこなわれる <SA>

	(2)	Q14-3-1	Q14-3-2	Q14-3-3	Q14-3-4
	全 体	はい	いいえ	不明	非該当
件 数	1751	308	1236	207	0
%	100.0	17.6	70.6	11.8	0.0

■【Q14-4】 D. 地域の生活ルールを再確認できる <SA>

	(2)	Q14-4-1	Q14-4-2	Q14-4-3	Q14-4-4
	全 体	はい	いいえ	不明	非該当
件 数	1751	1130	402	219	0
%	100.0	64.5	23.0	12.5	0.0

■【Q14-5】 E. 地域の活性化につながる <SA>

	(2)	Q14-5-1	Q14-5-2	Q14-5-3	Q14-5-4
	全 体	はい	いいえ	不明	非該当
件 数	1751	910	619	222	0
%	100.0	52.0	35.4	12.7	0.0

■【Q14-6】 F. 異文化に対する偏見がなくなる <SA>

	(2)	Q14-6-1	Q14-6-2	Q14-6-3	Q14-6-4
	全 体	はい	いいえ	不明	非該当
件 数	1751	1127	344	280	0
%	100.0	64.4	19.6	16.0	0.0

■【Q14-7】 G. 意思疎通ができないのではと不安になる <SA>

	(2)	Q14-7-1	Q14-7-2	Q14-7-3	Q14-7-4
	全 体	はい	いいえ	不明	非該当
件 数	1751	813	657	281	0
%	100.0	46.4	37.5	16.0	0.0

■【Q14-8】 H. 治安・風紀が乱れる <SA>

	(2)	Q14-8-1	Q14-8-2	Q14-8-3	Q14-8-4
	全 体	はい	いいえ	不明	非該当
件 数	1751	739	718	294	0
%	100.0	42.2	41.0	16.8	0.0

■【Q14-9】 I. 労働力が補充される <SA>

	(2)	Q14-9-1	Q14-9-2	Q14-9-3	Q14-9-4
	全 体	はい	いいえ	不明	非該当
件 数	1751	1042	394	315	0
%	100.0	59.5	22.5	18.0	0.0

■【Q14-14】N. 教育・福祉・住宅などの受け入れ整備のために税金からの負担が増す <SA>

	(2)	Q14-14-1	Q14-14-2	Q14-14-3	Q14-14-4
	全体	はい	いいえ	不明	非該当
件数	1751	918	523	310	0
%	100.0	52.4	29.9	17.7	0.0

■【Q14-15】O. 名前や顔のわからない外国人住民が増える <SA>

	(2)	Q14-15-1	Q14-15-2	Q14-15-3	Q14-15-4
	全体	はい	いいえ	不明	非該当
件数	1751	1310	156	285	0
%	100.0	74.8	8.9	16.3	0.0

■【Q14-16】P. その他 <SA>

	(2)	Q14-16-1	Q14-16-2	Q14-16-3	Q14-16-4
	全体	回答あり	回答なし	不明	非該当
件数	1751	65	7	1679	0
%	100.0	3.7	0.4	95.9	0.0

■【Q15】お住まいの地域では、外国人住民との関わりは深めるべきだと思いますか。 <SA>

	(4)	Q15-1	Q15-2	Q15-3	Q15-4	Q15-5	Q15-6
	全体	積極的に深めていくほうが	生活上、必要最低限はした	特に深めなくてもよい	わからない	不明	非該当
件数	1751	193	789	267	244	258	0
%	100.0	11.0	45.1	15.2	13.9	14.7	0.0

■【Q15-1】お住まいの地域で、外国人住民との関わりを深めるべきと思われる理由は何ですか。 <MA>

	(7)	Q15-1-1	Q15-1-2	Q15-1-3	Q15-1-4	Q15-1-5	Q15-1-6	Q15-1-7	Q15-1-8	Q15-1-9
	全体	外国人住民にも地域活動に	災害時や緊急のときに連絡	安全・安心の地域づくりを	冠婚葬祭などでの助け合い	外国人住民にも地域のルー	日本人住民の外国人住民へ	その他	不明	非該当
件数	1751	494	503	701	120	763	515	28	50	769
%	100.0	28.2	28.7	40.0	6.9	43.6	29.4	1.6	2.9	43.9

■【Q16】あなた自身は、お住まいの地域で外国人とどのように関わっていきたいですか。 <SA>

	(3)	Q16-1	Q16-2	Q16-3	Q16-4	Q16-5
	全体	積極的に関わっていききたい	今くらいの関わり方でよい	あまり関わらないようにし	不明	非該当
件数	1751	180	644	617	310	0
%	100.0	10.3	36.8	35.2	17.7	0.0

■【Q16-1】あなた自身が、お住まいの地域で外国人と関わっていきこうと思う理由はどのようなものですか。 <MA>

	(8)	Q16-1-1	Q16-1-2	Q16-1-3	Q16-1-4	Q16-1-5	Q16-1-6	Q16-1-7	Q16-1-8	Q16-1-9	Q16-1-10
	全体	外国人住民が近所に住んで	外国人住民と同じ職場だか	外国人の友人が欲しいから	外国の文化や言葉を学びた	地域の外国人住民が困って	外国人住民が地域にとって	国際人として自分も何かし	その他	不明	非該当
件数	1751	352	63	116	304	91	61	253	55	37	927
%	100.0	20.1	3.6	6.6	17.4	5.2	3.5	14.4	3.1	2.1	52.9

■【Q16-2】どのような状況があれば関わろうと考えますか。 <MA>

	(5)	Q16-2-1	Q16-2-2	Q16-2-3	Q16-2-4	Q16-2-5	Q16-2-6	Q16-2-7
	全体	外国人住民との間にことば	外国人住民が地域にとけ込	外国人住民に親しくして	その他	どのような状況でも関わり	不明	非該当
件数	1751	213	335	85	47	76	51	1134
%	100.0	12.2	19.1	4.9	2.7	4.3	2.9	64.8

■【Q17】どのような機会を通して外国人住民と関わりたいですか。 <MA>

	(10)	Q17-1	Q17-2	Q17-3	Q17-4	Q17-5	Q17-6	Q17-7	Q17-8	Q17-9	Q17-10	Q17-11	Q17-12
	全体	日常的なあいさつ	地域の活動(自治会の清	同じ職場・学校での交流	子どもの学校を通じた親同	行政等が行う国際交流のイ	外国人住民への支援活動	防災訓練	趣味のグループやサークル	友人・家族との私的な交流	その他	不明	非該当
件数	1751	1103	803	203	200	280	191	247	429	264	46	259	0
%	100.0	63.0	45.9	11.6	11.4	16.0	10.9	14.1	24.5	15.1	2.6	14.8	0.0

■ 【Q18】 外国人住民があなたのお住まいの地域で生活していくうえで、ぜひ、してほしいと思うことは何でしょうか。〈MA〉

	(10)	Q18-1	Q18-2	Q18-3	Q18-4	Q18-5	Q18-6	Q18-7	Q18-8	Q18-9	Q18-10	Q18-11	Q18-12
	全体	十分な日本語の習得	地域の生活ルールを守る	子どもの教育をきちんと行	地域活動に参加する	母国の文化や習慣を日本人	母国のことばを日本人に教	外国人住民同士で助け合う	地域の人に生活上の悩みを	あいさつなど基本的な生活習	その他	不明	非該当
件数	1751	686	1407	516	725	329	263	177	409	1167	35	156	0
%	100.0	39.2	80.4	29.5	41.4	18.8	15.0	10.1	23.4	66.6	2.0	8.9	0.0

■ 【Q19-1】 A. 日本にやってきた外国人のなかで定住する人たちが増えること 〈SA〉

	(5)	Q19-1-1	Q19-1-2	Q19-1-3	Q19-1-4	Q19-1-5	Q19-1-6	Q19-1-7
	全体	好ましい	どちらかといえば好ましい	どちらかといえば好ましくない	好ましくない	わからない	不明	非該当
件数	1751	241	569	292	148	332	169	0
%	100.0	13.8	32.5	16.7	8.5	19.0	9.7	0.0

■ 【Q19-2】 B. 日本にやってきた外国人のなかで日本国籍を取得する人たちが増えること 〈SA〉

	(5)	Q19-2-1	Q19-2-2	Q19-2-3	Q19-2-4	Q19-2-5	Q19-2-6	Q19-2-7
	全体	好ましい	どちらかといえば好ましい	どちらかといえば好ましくない	好ましくない	わからない	不明	非該当
件数	1751	277	540	276	132	350	176	0
%	100.0	15.8	30.8	15.8	7.5	20.0	10.1	0.0

■ 【Q19-3】 C. 高度な専門知識や技術をもつ外国人が日本で働くようになること 〈SA〉

	(5)	Q19-3-1	Q19-3-2	Q19-3-3	Q19-3-4	Q19-3-5	Q19-3-6	Q19-3-7
	全体	好ましい	どちらかといえば好ましい	どちらかといえば好ましくない	好ましくない	わからない	不明	非該当
件数	1751	613	608	119	63	170	178	0
%	100.0	35.0	34.7	6.8	3.6	9.7	10.2	0.0

■ 【Q19-4】 D. 工場などで単純労働を行う外国人が増えること 〈SA〉

	(5)	Q19-4-1	Q19-4-2	Q19-4-3	Q19-4-4	Q19-4-5	Q19-4-6	Q19-4-7
	全体	好ましい	どちらかといえば好ましい	どちらかといえば好ましくない	好ましくない	わからない	不明	非該当
件数	1751	163	446	348	266	343	185	0
%	100.0	9.3	25.5	19.9	15.2	19.6	10.6	0.0

■ 【Q19-5】 E. 介護・看護等の領域で働く外国人が増えること 〈SA〉

	(5)	Q19-5-1	Q19-5-2	Q19-5-3	Q19-5-4	Q19-5-5	Q19-5-6	Q19-5-7
	全体	好ましい	どちらかといえば好ましい	どちらかといえば好ましくない	好ましくない	わからない	不明	非該当
件数	1751	368	592	231	145	247	168	0
%	100.0	21.0	33.8	13.2	8.3	14.1	9.6	0.0

■ 【Q19-6】 F. 日本の文化や芸術などを学ぶために日本で生活する外国人が増えること 〈SA〉

	(5)	Q19-6-1	Q19-6-2	Q19-6-3	Q19-6-4	Q19-6-5	Q19-6-6	Q19-6-7
	全体	好ましい	どちらかといえば好ましい	どちらかといえば好ましくない	好ましくない	わからない	不明	非該当
件数	1751	674	645	76	31	120	205	0
%	100.0	38.5	36.8	4.3	1.8	6.9	11.7	0.0

■ 【Q19-7】 G. 海外の文化や芸術を紹介するために来日する外国人が増えること 〈SA〉

	(5)	Q19-7-1	Q19-7-2	Q19-7-3	Q19-7-4	Q19-7-5	Q19-7-6	Q19-7-7
	全体	好ましい	どちらかといえば好ましい	どちらかといえば好ましくない	好ましくない	わからない	不明	非該当
件数	1751	612	674	82	38	142	203	0
%	100.0	35.0	38.5	4.7	2.2	8.1	11.6	0.0

■ 【Q19-8】 H. 日本人と結婚して日本に住む外国人が増えること 〈SA〉

	(5)	Q19-8-1	Q19-8-2	Q19-8-3	Q19-8-4	Q19-8-5	Q19-8-6	Q19-8-7
	全体	好ましい	どちらかといえば好ましい	どちらかといえば好ましくない	好ましくない	わからない	不明	非該当
件数	1751	294	582	217	104	335	219	0
%	100.0	16.8	33.2	12.4	5.9	19.1	12.5	0.0

■【Q19-9】 I. 外国からの観光客が増えること <SA>

	(5)	Q19-9-1	Q19-9-2	Q19-9-3	Q19-9-4	Q19-9-5	Q19-9-6	Q19-9-7
	全体	好ましい	どちらかといえば好ましい	どちらかといえば好ましくない	好ましくない	わからない	不明	非該当
件数	1751	797	543	62	31	118	200	0
%	100.0	45.5	31.0	3.5	1.8	6.7	11.4	0.0

■【Q20】 あなたの性別は？ <SA>

	(2)	Q20-1	Q20-2	Q20-3	Q20-4
	全体	男性	女性	不明	非該当
件数	1751	983	721	47	0
%	100.0	56.1	41.2	2.7	0.0

■【Q21】 あなたの年齢は？ <SA>

	(9)	Q21-1	Q21-2	Q21-3	Q21-4	Q21-5	Q21-6	Q21-7	Q21-8	Q21-9	Q21-10	Q21-11
	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	不明	非該当
件数	1751	1	59	171	209	337	484	346	79	0	65	0
%	100.0	0.1	3.4	9.8	11.9	19.2	27.6	19.8	4.5	0.0	3.7	0.0

■【Q22】 あなたはお仕事をしていますか。 <SA>

	(2)	Q22-1	Q22-2	Q22-3	Q22-4
	全体	はい	いいえ	不明	非該当
件数	1751	1014	652	85	0
%	100.0	57.9	37.2	4.9	0.0

■【Q23】 あなたのお仕事は大きく分けてつぎのどれにあたりますか？ <SA>

	(8)	Q23-1	Q23-2	Q23-3	Q23-4	Q23-5	Q23-6	Q23-7	Q23-8	Q23-9	Q23-10
	全体	自営業主(自由業を含む)	家族従業者	内職	経営者・役員	管理職	常時雇用されている一般従業員	パート・アルバイト・臨時	派遣社員	不明	非該当
件数	1751	198	30	6	61	103	346	229	18	23	737
%	100.0	11.3	1.7	0.3	3.5	5.9	19.8	13.1	1.0	1.3	42.1

■【Q24】 あなたのお仕事の内容はつぎのどれにあたりますか？ <SA>

	(10)	Q24-1	Q24-2	Q24-3	Q24-4	Q24-5	Q24-6	Q24-7	Q24-8	Q24-9	Q24-10	Q24-11	Q24-12
	全体	専門知識や技能を活かした	管理的な仕事(課長以上の)	事務的な仕事(管理・企)	営業・販売の仕事(セール)	サービスの仕事(美容)	農林業の仕事	保安の仕事(警備員など)	運輸・通信の仕事(運転)	製造・技能・労務の仕事	その他	不明	非該当
件数	1751	235	98	153	68	130	34	15	32	144	91	14	737
%	100.0	13.4	5.6	8.7	3.9	7.4	1.9	0.9	1.8	8.2	5.2	0.8	42.1

■【Q25-1】 同居されているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか？ <SA>

	(11)	Q25-1-1	Q25-1-2	Q25-1-3	Q25-1-4	Q25-1-5	Q25-1-6	Q25-1-7	Q25-1-8	Q25-1-9	Q25-1-10	Q25-1-11	Q25-1-12
	全体	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	不明
件数	1751	44	228	559	355	245	116	63	27	3	1	1	109
%	100.0	2.5	13.0	31.9	20.3	14.0	6.6	3.6	1.5	0.2	0.1	0.1	6.2

	Q25-1-13
	非該当
件数	0
%	0.0

■【Q25-2】 同居されているご家族は、つぎのうちのどなたですか？ <MA>

	(9)	Q25-2-1	Q25-2-2	Q25-2-3	Q25-2-4	Q25-2-5	Q25-2-6	Q25-2-7	Q25-2-8	Q25-2-9	Q25-2-10	Q25-2-11
	全体	配偶者	親	配偶者の親	息子	娘	子どもの配偶者	孫	孫の配偶者	その他	不明	非該当
件数	1751	1149	171	47	513	410	87	96	10	35	34	381
%	100.0	65.6	9.8	2.7	29.3	23.4	5.0	5.5	0.6	2.0	1.9	21.8

■【Q25-3】 保育所や学校等に通っているご家族と同居されている方にうかがいます。どこに通っていますか？ <MA>

	(6)	Q25-3-1	Q25-3-2	Q25-3-3	Q25-3-4	Q25-3-5	Q25-3-6	Q25-3-7	Q25-3-8
	全 体	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高校	その他	不明	非該当
件 数	1751	73	64	175	108	101	47	1340	0
%	100.0	4.2	3.7	10.0	6.2	5.8	2.7	76.5	0.0

■【Q26】 あなたのご家庭は自治会に入っていますか。 <SA>

	(2)	Q26-1	Q26-2	Q26-3	Q26-4
	全 体	はい	いいえ	不明	非該当
件 数	1751	1383	225	143	0
%	100.0	79.0	12.8	8.2	0.0

■【Q27】 集住地域・非集住地域 <SA>

	(2)	Q27-1	Q27-2	Q27-3	Q27-4
	全 体	集住地域	非集住地域	不明	非該当
件 数	1751	806	945	0	0
%	100.0	46.0	54.0	0.0	0.0

■【Q28】 3類型 <SA>

	(3)	Q28-1	Q28-2	Q28-3	Q28-4	Q28-5
	全 体	住宅・商業地域	工業地域	農山村地域	不明	非該当
件 数	1751	604	557	590	0	0
%	100.0	34.5	31.8	33.7	0.0	0.0

5. リソース調査ヒアリングシート

各 位

「北関東における広域連携による多文化共生の地域づくり調査」に関する ヒアリング調査ご協力のお願い

謹啓 新春の候、時下益々ご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、現在、国土交通省、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県では、共同で外国人と日本人がともに安心して暮せる地域をつくるための調査研究として「北関東における広域連携による多文化共生の地域づくり調査」事業を実施しております。

多文化共生の地域づくりとは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、同じ地域社会の一員として対等な関係を築こうとしながら、交流し、安心して暮らせる地域社会の実現をめざすものです。北関東には現在、多くの外国人が在住しており、各国の文化に触れることができると同時に生活上のトラブルや児童生徒の就学問題など地域で様々な課題が生じています。

本調査の目的の一つとして、北関東4県において、これまで上記課題等の解決に向けて様々な活動を展開してきた地域のNPO法人やボランティア団体・個人・施設等が、それぞれの活動の連携・協力による多文化共生社会実現を目指すためのデータ蓄積及び各主体の参画条件の整備を目指すためのリソース（人材・施設等）調査を行うこととしています。

それぞれの団体や個人等が有する特徴やノウハウ・人材等を活かし、多文化共生の地域づくりにどのように関わられるのか、参画条件や課題は何か等に関し、**次ページからの「調査票」**にお示した団体等の活動の現状と課題、連携・協働の可能性等について情報を把握してデータベース化することにより、日本人、在住外国人双方への情報提供を充実させていくこととしています。

つきましては、本事業の調査業務の委託先である下記の調査機関が直接お伺いするか、または電話で上記項目に関する質問をインタビュー形式でさせていただきたく存じます。**皆様に「調査票」を返送していただく必要はございません。**

また、今後、災害時の対応や防災訓練、ITを活用した多様な主体による連携促進事業（テレビ会議によるボランティア間の意志疎通や連携、IT通訳システムの運用など）の実証実験を予定しています。ご関心があればこれらの行事へご参加いただき、ご意見などもいただければと存じます。ご多忙の折、大変恐縮ではございますが、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

敬白

平成21年2月

群馬県生活文化部国際課（幹事）
茨城県生活環境部国際課
栃木県産業労働観光部国際課
埼玉県県民生活部国際課

【問い合わせ先】

○調査機関

ランドブレイン株式会社 [担当] 佐藤、村上、兼城

電話番号；03-3263-9386（月～金）10：00～17：00

FAX番号；03-3264-8672

住 所；〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10 平河町第1生命ビル7階

◇ご多忙の折、恐縮ですが、調査員が、後日、電話で下記の調査項目にしたいご質問をさせていただきます。よろしくご協力くださる様、お願いいたします。

「北関東における広域連携による多文化共生地域づくり」に関するヒアリング項目

[Q1]貴団体の概要

①団体名	
②住所	
③電話番号	
④PC アドレス	
⑤ホームページ (URL)	

[Q2]貴団体の現在の主な事業活動について当てはまるものをお選びください。(複数回答)

- ①日本語学習支援
- ②通訳
- ③翻訳
- ④国際交流支援
- ⑤生活情報提供サービス
- ⑥ネットワークづくり
- ⑦生活・法律等の相談
- ⑧異文化教育・講座
- ⑨資金援助
- ⑩留学生・就学生支援
- ⑪情報誌発刊
- ⑫その他 (具体的に ;)

[Q3]貴団体が活動をしていく上で、どのような課題がありますか。次のうちで当てはまるものをお選びください。(複数回答)

- ①人材が足りない
- ②資金調達が難しい
- ③外部組織との連携・調整が難しい
- ④日本人の協力が得にくい
- ⑤外国人の協力が得にくい
- ⑥その他 (具体的に ;)

[Q4]行政に対して要望があればお聞かせください。

◇多文化共生の地域づくりを推進するための他団体等との連携・支援について

[Q5]他団体との連携・協働の必要性を感じていますか。

- ①必要性を感じている
- ②必要性を感じていない

⇒[Q5]で「①必要性を感じている」とお答えになった方にお聞きします。

[Q6]どのような場面で必要性を感じていますか。(複数回答)

- ①国際交流
- ②在住外国人支援
- ③国際理解教育
- ④ネットワークづくり
- ⑤防災対策
- ⑥救急医療
- ⑦就職・就学
- ⑧その他(具体的に ;)

[Q7]どの地域と連携したいですか。(複数回答)

- ①茨城県
- ②栃木県
- ③群馬県
- ④埼玉県
- ⑤東京都
- ⑥全国
- ⑦その他(具体的に ;)

[Q8]他団体等からどのような支援・協力を受けたいですか。(複数回答)

- ①人材支援
- ②資金援助
- ③技術協力
- ④情報交換
- ⑤その他(具体的に ;)

◇[Q5]で「②必要性を感じていない」とお答えになった方にお聞きします。

[Q9]どのような理由で必要性を感じていないのですか。(複数回答)

- ①自らの組織で十分に対応できる
- ②連携する具体的な活動分野がわからない
- ③他団体等の意向について情報がない
- ④活動内容から見て連携しても効果がない
- ⑤その他(具体的に ;)

[Q10]どのような条件があれば連携が考えられますか？(複数回答)

- ①連携を促す(仲介する)組織・コーディネーターがいれば
- ②情報や課題を共有する場があれば
- ③連携のためのネットワークづくりが進めば
- ④連携・協働する実践の場が確保されれば
- ⑤その他(具体的に;

)

◇本調査の一環で予定している活動(実証実験、イベント等)について

[Q11]3月までに次のイベント・活動(実証事業)を予定しています。参加したいと思われる活動についてお聞かせください。(複数回答)

- ①防災訓練
- ②通訳システム
- ③ホームページによる情報発信・交流(「別添資料」ご参照)
- ④シンポジウム(3月9日開催予定)

◇ホームページ(別添資料)等での貴団体の名前、活動内容の掲載について

[Q12]貴団体の名称、住所、電話、活動内容についてホームページ等で公開することについてどのようにお考えですか。(複数回答)

- ①誰にでも全ての情報を公開してよい
- ②電話番号やメールなど連絡先は伏せた形で公開してよい
- ③紹介の要望があれば、まずこちらに紹介してもよいか確認をとってほしい
- ④こちらから連絡をとるので紹介しないでほしい
- ⑤一切公開しないでほしい

[Q13]多文化共生の地域づくりに関するご意見があればお聞かせください。

—

—

—

以上、ご協力いただき有難うございました。

6. リソース調査自由回答

[Q4]行政に対して要望があればお聞かせください。

[自由回答]

- ・ 資金的援助 (17)
- ・ 会場確保 (5)
- ・ 手続きの簡素化 (4)
- ・ 情報公開、情報提供、情報交換 (6)
- ・ 外国人児童、生徒の教育・語学支援充実 (4)
- ・ 高校進学ガイダンスを今後も規模を縮小せずに継続してほしい。
- ・ 地域とか、ボランティアのネットワークづくりをしてほしい。
- ・ 交流の機会をふやし、現場の声をきいてほしい。それを行政へ反映してほしい。企業へのよびかけに協力してほしい。
- ・ 特別な優待的な待遇がほしい。
- ・ 海外ボランティア活動が日本文化になるよう支援してほしい。
- ・ 調査をどんどんやって具体的に提案をだしてほしい。
- ・ 地域の外国人の方に日本語を教えているのがボランティアの人で人手がたりない時があるので、法律、医療、教育のバックアップがもっともっとほしい。
- ・ 行政には、自分たちが動かなければ協力がえられない。
- ・ 在住外国人が増加しているので、行政のサポートがなされていない。子供に対する支援がボランティアまかせになっているので、行政が力を入れるべきだ。
- ・ 日本人に対して、豊かな人達に対して期待はしていない。
- ・ 広域的（県を4つ位に分けて、その中で）な自治体の関係を強めてほしい。
- ・ 行政とのネットワークづくり、情報を密にしてほしい。
- ・ 行政の行事が同じようなものが重なる（秋に似たようなお祭りがある）と参加するのが大変。もう少し考えて内容を絞って行った方がよい。
- ・ 地域に多くの外国人が居住しているが、個人情報保護法の関係で外国人の所在が分からないのが困る。何らかの方法で連絡がとれないものか。外国人にとっても、例えば、日本語を学習したいと思っても、情報が限られているので伝わらない。
- ・ 市民と外国人の方との交流として、サロンのような交流の場の開設を希望している。
- ・ 行政内の多文化共生社会町内連絡会議の稼働が活発でないので、もう少しフル活動してほしい。
- ・ 小学校低学年までをもつ外国人の父母への学校からの文章などの翻訳サービス等が気軽につかえるようになるとよい。高度の日本語力の養成でなくてよいので、日常の会話までは、行政でしっかりサポートできるシステム作りをしてほしい。
- ・ 行政とは連絡を密に図りながら活動していきたい。
- ・ スタッフの動員。
- ・ 国際学術会議の支援（その時に必要性のあることに関して）。
- ・ 行政はこのような自主活動、ボランティア活動にフォローアップの不足、自分の必要な時だけ声をかけてきて、育てようという知識が欠けていると感じている。
- ・ 行政に対しては保険外のサービスが多々出てくるので、本当の支援が届かない。法の規定の緩和を願っている。NPOに対して行政の支援をお願いしたい。
- ・ 外国人受け入れに対する国の指針のもと、国・県・市・地域国際交流協会の役割分担が不明確

- ・外国人に対し生活支援が急務。日本で生活する程度の最低限度の情報は多言語でほしい。
- ・防災訓練に外国人参加を考えてほしい。
- ・行政の政策として多文化共生の実現のための明確な具体策を提示してほしい。
- ・多文化共生という点では、住んでいる外国人への配慮が欠けている。それを支援していく。
- ・福祉に力を入れ、施策に力を入れてほしい。
- ・NPOは内閣府、若い人のサポートをしているが、ステーションに来る。内閣府が企業と事前にタイアップして予備の仕事を確認して仕事ができるようにしてほしい。
- ・「民」の自立のためには悩むところである。
- ・市とかNPOとの活動をどのように連携をとって活動していけば一番よいかなと思います。
- ・担当者が2～3年で変わってしまい、折角、これまで築いた信頼関係やノウハウが無に帰してしまう。引継ぎを上手く行なってほしい。
- ・団体の活動に対する理解が少ない。団体の広報にも努力しているが、行政の広報より信用が落ちるので、それらを裏付けする事にも行政に協力してほしい。
- ・市のスタンスや方針が曖昧なところがあるので、明確にしてほしい。
- ・支援会があれば。

〔Q13〕多文化共生の地域づくりに関するご意見があればお聞かせください。

〔自由回答〕

- ・在住外国人への理解を深め、共存していくためにご協力できることがあれば、可能な範囲で参加させていただきたいと思います。
- ・行政による環境づくりが望まれる。
- ・日本人は外国人への理解が少ないので、もっと交流の場を増やしてほしい。視覚障害で日本語も話せない方が、日本に来た時の対応もしてほしい。
- ・各団体が横のつながりを持つための連携は必要だと思います。ネットワークづくりをがんばって下さい。
- ・外国人との交流を通じて、多文化に触れて理解を深めてほしい。
- ・外国人と共生していかないと、日本はやっていけないと思うので、外国人が住みやすくなる様にしていきたい。
- ・情報交換するという事は大事だと思う。(2)
- ・広域的にボランティア、行政、教育機関が連携して、積極的に推進する必要がある。
- ・県などからもう少し国際交流の情報、特に姉妹都市関係を流してほしい。
- ・補助金の拡大をしてほしい。
- ・色々なところで関係プレーの必要性は感じているが、具体的な意見はない。
- ・地域の一番身近な集まりである町内会に外国人の方を参加してもらうようにする。
- ・限定された地域でのホームページはとてもよい。もっとローカルで密に地域に関われる活動を望む。
- ・地域に住んでいる外国人の日本語力アップ。地域に住んでいる日本人の意識改革が必要。
- ・埼玉県の中で蕨市の外国人は4.2%ととても多いので、在住者の生活に密着した情報や手助けが大きな課題。
- ・今、教室に仕事もなくしたペルーの人達がたくさん来ていて、その人達がどこに相談にいったらいいのか分からないので困っている。外国人の人達の相談出来る場所をつくってほしい。
- ・外国人の学校をつくりたい。高収入の外国人と不安定な方の支援の2つをどの様にバランスよくしていくかを考えていきたい。
- ・外国人を支援する形がなかなかみえない。

- ・このようなことはボランティアまかせでなく官主導で行うべきだ。
- ・目標にしている課題である。まだまだ一般に理解されていない。事件があるとマスコミに外国人と出てしまうので、お互いの理解に相反してしまう。一部の人の事が全体として見られてしまう事が残念。
- ・広がりのある県同士の活動がクローズアップされれば良い。
- ・行政との連携が難しいので、そこをしっかりとしてほしい。特にゴミの問題をしっかりとしてほしい。
- ・行政ももっと積極的に動いて欲しい。
- ・まだ浸透していないので、外国人との密なつながりをつくっていききたい。
- ・行政は多文化共生とってやらなければいけないとは言っているようだが、かけ声だけで内容は伝わって来ない。ボランティア団体に頼っているのが現状だと思う。
- ・異文化の認識を持つことが大切といつも感じている。異文化について勉強会があれば勉強したい（東京位なら行って）。自分の国の文化をきちんと身につけて接する事も大切と感じている。学ぶ機会があるとよい。
- ・多文化共生社会の実現のためには、地域に居住する外国人の所在が分からないことには実現できない。市町村の段階ではなく、県から各市町村に外国人情報を、活動している協会に知らせる指示が行えないものか。
- ・在住外国人には、オーバーステイ等の人もある。法の壁があり、対応しきれないものがある。法を犯す原因を理解する事が大切と思う。
- ・まだ多文化共生に対して、市民に浸透していないので、啓発活動や自らが参加できる場づくりをしてもらいたい。
- ・ボランティアまかせにせず、行政側で最低限必要なフォローをしっかりとあげてほしいです。イベントもよいのですが、それよりも歩いていける範囲に、日本語勉強ルームとかの方が大切かと思います。みんな足がない人が多いので、わかってないなと思います。
- ・農業関係なので、ネットワークが課題と思っている。
- ・活動の分野が異なると思われるので、ありません。
- ・これまでも多文化共生に向けた事業を実施してきたが、これからも継続していききたい。
- ・日本人の理解が何より必要だと感じている。
- ・本村は、農村部に位置しているため、まだ外国人の方が少なく、多文化共生という概念が浸透しておりません。今後、活動の必要性が感じられます。
- ・活動の中でネットワークが大切かと思う。
- ・資金援助のみ、他にはない。
- ・太田地区は外国人が大変多い地域なので、一緒になって同じように安心安全の生活が出来るよう交流していけたらと思っている。
- ・一つは各地の交際交流協会の活動がありますが、その地域の外国人の実情、悩みや希望を日本人に（日本人の人に広く）PRしてほしい。そのようなことが足りないような気がしている。
- ・地域づくりに興味があるなしの差がありすぎる。外国人との共生に難しい面がある。日本人は外国人を、外国人は日本人の視線を怖がる。犯罪とかされたらこわいという目で見られたりするので、友達だという地域づくりを作っていくのは難しさを感じている。要するに、互いに理解し合えてないということだと思う。日本人は外国人と同化したがついているし、外国人は自国の文化を守って生活していこうとする面があって、共生という地域づくりに難しさを感じている。
- ・地域に外国人が多く住んでいるところなので、いろんな文化を知る為、交流会や勉強会がもてたらいいと感じている。法の緩和をしてもらって、共に仕事が出来たらと思う。例えばライセンスの違いなど国によっての法の制限があるので。
- ・まず外国人と実際に付き合う。その中から本音を聞き出し、協力出来ることは協力する。あまり意識せず、日本人と同じように接する。外国語を覚えるにこしたことはないが、日本語で話しかけるのも全然OKです。

- ・安全に暮らせる基盤づくりが重要であると思う。外国人住民が活動に参加して入ってくることに自然に受け入れる日本人の意識を変えていけるような事業づくり、外国の人も地域づくりに積極的に参加出来るような仕組みがあれば、双方が自然にお互いに交流出来て、安全に暮らせる基盤作りが出来たらと思っている。
- ・今年度中の活動予定は全て決められてしまっているので、3月までのイベントの参加はない。
- ・なし。県の窓口につながっているのので、何かあったらそちらに言いますから。
- ・行政と在住外国人の方々との話し合いに関して活発にして、何が地域にとって必要なのか、どこから手をつけるべきなのか、はっきり指針を作っていくことが大切ではないでしょうか。
- ・意見というより、日本人は柔軟だが、相手は全く日本の文化を受容しない団体を作られると、一つの神という極端な面があるので、文化・習慣などの柔軟性がないと日本での共生といってもかなり困難な点があると感じている。
- ・「仲良くやりたい」の一語に尽きる（世界的規模で仲良く交流をしていきたい）。
- ・多文化との共生については、労働力を含めた日本の産業に欠くことのできない重要な分野と考える。
- ・雇用問題に関して、どうしても不利な扱いをされているので、配慮がなされるようにと思う。
- ・実際にはあまりない。国際交流協会と連携して、必要があれば協力はしていきたいと考えている。
- ・外国人の少ない地域ですが、もし今後共生ということを考えて、今私共は防災という点に力を入れているので、その際の言葉の壁などをどのように解決していくかを考えておかねばならないと思っています。
- ・事業内容で外国人の増える可能性も少ないので、今のところ特に意見はありません。
- ・うちは山の方で、外国人があまり在住していない。該当者がほとんどいないということで、特にありません。
- ・大事なことなので、すすめることは必要である。
- ・多文化共生などを行っている団体などがあれば、その情報を交換していければと思う（個人情報のごとくでむずかしいとは思いますが…）。
- ・たくさんコミュニケーションする場を作ってくれば、外国人の方もとけこめると思うので、コミュニケーションの場をたくさん作ってほしい。
- ・市議員等の海外視察や、姉妹都市交流に税金を使うのではなく、地域で生活している外国の人達の実生活の手助けとなるような情報の発信や、必要な語学学習などにお金を使うべきと考える。
- ・留学生の方が日本人の学生の方と交流を取るのがなかなか大変だという事を聞くので、地域と連携してそのような事を活動していきたい。
- ・経済的な支援。自国だけではなく他の国への支援することが必要だと思う。
- ・個人情報がるさく、外国人の情報が手に入りにくいのが困っている。
- ・他の団体の方がどんな仕事をしているか分かると、活動の仕方や交流につながると思う。
- ・行政ができることが限られている。アプローチできるところには行き渡っているが、アプローチできないところがNGOに来ていると思う。住みわけがあると思うが連携よく情報交換ができればよいと思う。
- ・日本語を勉強したい外国人向けへのネットワークづくりをしてほしい。個人でするのは大変難しいので、市からも支援をもらいたい。